

会 議 録

会 議 名	平成29年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課 (はけの森美術館)		
開 催 日 時	平成29年11月7日(火) 18時30分～19時20分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 上原佐世子委員 川崎京子委員 小林正隆委員 鈴木遵矢委員		
欠 席 委 員	山村仁志委員		
事 務 局 員	薩摩学芸顧問 コミュニティ文化課文化推進係 吉川、永井 同 はけの森美術館学芸員 鈴木		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由	傍聴者数	0人	
会 議 次 第	(1) 展覧会「南方より伊東深水から一市川市所蔵『南方風俗スケッチ』観覧 (2) 事業実施報告等 (3) 意見交換等 (4) その他 次回日程調整等		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	(1) 開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定 (2) 平成29年度年間スケジュール		

平成29年度 第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会

平成29年11月7日（火）

【鉄矢会長】 それでは、平成29年度第3回小金井市立はけの森美術館運営協議会を始めたいと思います。

【事務局】 委員長。山村先生がお仕事の都合で欠席です。中村学芸員が来年度の展覧会の共同展の会議がありまして、愛知の瀬戸に行っておりますので今日は欠席です。

【鉄矢会長】 はい、わかりました。では本日の配付資料の確認を事務局のほうでお願いいたします。

【事務局】 本日の資料なんですけれども、運営協議会資料1と、いろいろ内容が書いてあるものなんですけれども、それが1部。また、スケジュールが書いてあります資料2が両面のものですが、こちらが1点。また資料3としてアンケートの結果が集計してありますものが2点あります。

また今やっている展覧会のチラシも配付させていただきましたので、あわせてご確認ください。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。それでは次第の2のほうから、次第の1についてはお集りいただきまして、皆様には展覧会のほうをごらんいただいたと思いますので、2枚目の事業実施報告等から行きます。

(1) 開催した展覧会・ワークショップ等について事務局から説明をお願いします。

【鈴木学芸員】 では、中村学芸員が担当しているものもありますが、鈴木がお話しさせていただきます。

開催した展覧会・ワークショップ等につきまして、まず(1)の展覧会の企画展として、「南方より、伊東深水から一市川市所蔵の「南方風俗スケッチ」」が7月28日から9月10日まで開催されました。皆様には前回、展覧会が始まる前にご覧いただいたかと思えます。観覧者数は大人が887人、子供が367人、計1,254人のお客様にご来館いただきました。

関連企画といたしましては、1番目のイベントとしては雨の日夕立プレゼントを行いました。このイベントは、当館は立地上、天候が悪いとお客様の入りが悪くなるという背景がございまして、多くのお客様にご来館いただきたいと考え、実施しました。雨の日に来

ていただいた方で、ご申告いただいた先着5名の方に、当館のオリジナルグッズをプレゼントいたしました。オリジナルグッズのプレゼントはお一人様1点までということで、手ぬぐいとクリアファイルなどから選んでいただきました。

利用者は49人の方だったんですけれども、皆さんとても喜ばれました。今後の当館の運営においても意味のある企画であったと思われまます。

2番目としましてはギャラリートークを行いました。スライドにありますのは、開会式の様子ですが、この後、附属喫茶棟で中村学芸員がトークを行いました。お茶を飲みながら展覧会の説明を聞くことができたため、お客様も満足度が高かったようです。

この開会式のギャラリートークとは別に、8月5日の土曜日と9月2日に、通常のギャラリートークを2回行いました。1回目は参加者が7人、2回目は参加者が24人でした。

スライドで映していますように多くの方にお越しいただきました。中村学芸員が作品の見どころや、また作品の背景などをお話ししたので、お客様も大変満足されたようでした。

続きまして3番目のイベントとして、レクチャー&テイスティング「あの頃、あの場所のお茶—画家と南方とお茶のあれこれ」を行いました。中村研一が従軍に向かった翌年に伊東深水が南方に向かったんですが、その年の1941年に「愛国製茶」という名のお茶の会社が設立されたんですね。画家たちが南方を体験していた時期に、国内はどのような状況であったのかということをお茶を通じてのぞいてみる企画として、あわせて日常の中で実践できるお茶の楽しみ方のポイントもレクチャーした、という内容になります。

スライドをごらんいただきたいのですが、講師は現在の愛国製茶株式会社代表取締役で、社長、茶専門技能士（茶匠）の資格をお持ちになった馬場章夫様が講師を務めてくださいました。茶葉の説明であるとか、お茶はどのようなものなのか、そういったお茶の作法などのお話などもあったようでした。この辺は私ではなく吉川が詳しく。

【吉川】 お茶の詳しい話と、あとは愛国製茶とは、どうしてそういうネーミングになって、愛国という名前がついたまま、戦後も大丈夫だったのはどうしてかという、その辺のお話もしていただいてよかったんですけれども、もう少し深く、歴史のほうの話を聞きたいというようなご意見もございました。実際にお茶をいれていただいて、玉露を、ものすごく本当にきちんといれると出汁の味がする。それがうまみだよ、出汁のうまみと同じという話もしていただいて、皆さん満足して帰られました。

歴史の部分については、もうちょっと知りたかったかなとこちらは感じましたが、すご

く和やかな良いワークショップでした。

【鈴木学芸員】 この展覧会の期間中に教育普及事業もありまして、東小学校と第四小学校の鑑賞教室がありました。また2つ目の教育普及事業といたしまして、こごうちぶんこさんの読み聞かせとワークショップ「たまごから、たまごのから」を行いました。たまごの殻を着色して砕いたものを使って絵を描いてみるワークショップで、あわせて本の読み聞かせを行いました。参加者はでき上がったものを持ち帰ったという内容になります。スライドはその時の様子です。

【吉川】 ここにもちょっと、実はいろいろ試みをしていて、土曜日の午前中に行ったほうが逆に来やすいのかなと考え、土曜日の午前中に行いました。たまたまその日に幼稚園があるところがあって、参加者は少なかったのですが、逆に初めて参加された方たちが3組だったのですね。その方々は、「あまり常連の方が多いと何か心配だな、いいかな、どうかと、ちょっとどきどきしながら参加した」というような感想をおっしゃっています。ですので、逆に新しい参加者に、こごうちぶんこのスタッフの方も一対一ぐらいについていただいたことで、とても楽しかったとか、またぜひ参加したいということでしたので、新しい来館者を掘り下げられたかなというのがあります。

【鈴木学芸員】 開催中の展覧会とワークショップとしまして、本日ご覧いただきました企画展「武蔵野の四季と共生 児島善三郎の国分寺時代」が11月4日の土曜日から開催しております。展覧会は12月17日までですけれども、この展覧会は中村研一と同郷で修猷館の2つ上の先輩で中村とも大変親交が深かった児島善三郎の国分寺時代の作品を展示しています。

児島善三郎という画家は、独立美術協会の中心的な存在として活躍していたんですけれども、1936年、昭和11年に武蔵野の大自然を求めて、それまで住んでいた代々木の初台から国分寺に移り住んできました。

児島は日本人の油絵というものを創出するために、装飾的な表現をみずからの画風に取り入れ、おおらかな筆づかいと鮮やかな色彩で制作します。荻窪に転居するまでのこの国分寺時代に名作の数々が生み出され、児島善三郎にとって国分寺時代は画業の頂点を極めた時代で、黄金時代を迎えていたと見ることもできるのですね。

小金井市は国分寺市に隣接しますし、また児島が中村と中村とも親交を深めていたことでもありますので、児島善三郎の国分寺時代の展覧会を開催いたしました。お客様も順調にいらしていただいていると思われまます。

ギャラリートークを11月18日と12月2日に行う予定です。2番目の関連イベントとしましては、11月23日の木曜日、祝日ですが、「児島善三郎のゆかりの武蔵野を散策しよう」を行う予定です。児島善三郎の国分寺のアトリエ跡や、アトリエの近辺で実際に風景を描いた場所などを散策した後に、はけの森美術館まで歩くウォーキングイベントを計画しております。

今回展示している作品などどの場所から描かれているのかにも触れて、国分寺から小金井まで楽しく歩く散歩のイベントになります。

また、3番目として鑑賞+創作プログラム「○△で何が出来る？ ながーい紙にポンポンポンッ！」というイベントを12月9日の土曜に開催いたします。藤田百合さん、赤松千佳さん、妹尾喜久子さんからなる、えほんとおそぶアートのおうちの皆さんが、講師を務めてくださいます。

児島善三郎は丸とか三角とかバツテンとか、つまり対象物を簡略化して描いくことが特徴なのです。そこで、小さなお子さんにも児島の風景画から丸、三角などを見つけ出し、形を楽しみながら創作するという内容です。

また、鑑賞教室も11月17日から12月15日まで随時行い、また事前授業も、前原小学校、緑小学校、本町小学校で行う予定です。

職場体験学習も行っております。本日から9日まで行うのですが、小金井市立東中学校の2年生男子生徒4人がいらして、様々な体験学習をしていただくという形になっています。以上になります。

**【鉄矢会長】** 今開催しているものの予定もちょっと入りましたけれども、今までの説明に何か質問、ご意見等ありましたらよろしくお願いします。

**【川崎委員】** いいですか。教育普及事業についてなんですけれども、こごうちぶんこさんがやられた10月14日の土曜日の、やっぱり先ほどおっしゃっていたんですけれども、時間が早いかどうかという、この日は一番近くの幼稚園で運動会が雨の中あったというのと、あともう一つ、土曜日に幼稚園が午前中にあるというところも、やはり小金井の中であって、人がやはり、せっかく無料でやっていただけるのに、ちょっとお客さんが少ないのはもったいないなと思いました。

初めての方に来ていただけるのもいいかとは思いますが、これから12月にやられる1時半から3時とか、そのくらいの枠のほうが読み聞かせとか、幼稚園生を対象にした企画の場合は午後のほうが来やすいのかなと思いました。

小学生以上でしたら、多分午前でも午後でも選べていいかなと思うんですけども、ちょっと3組は寂しいかなと思ったので、時間も少し変えていただけると。私も本当はすごく行きたかったんですけども、幼稚園で行けなかったのも、せっかくちょっと年齢を下げさせていただいて、参加しやすい企画だったので、行ければお友達とかにも声をかけて行けたなとは思ったので、ちょっと残念でした。

【吉川】　　ちょっと午後が来なかったりするときもあったので、じゃあ午前中のほうが、逆にもう子供さんがぐずる前にもう来ちゃったほうが、来やすいのかなと思ったので一応そのようにしてみたんですけど、土曜日の午前中に幼稚園があるというのは、私たちもわからなかったの。

【川崎委員】　　一つだけなんですけどね。

【吉川】　　ちょっと、その辺の情報収集が甘かったなという気がしています。

【川崎委員】　　幼稚園に通っている園児が割とこごうちぶんに多いんですよね、いつも集まっているメンバーが。なので、それでちょっと少なかったのかなというのもあるんですけど、それは、常連になってしまうとまたつまらないので、たまに時間帯をちょっと午前に変えるのもおもしろいかとは思ったんです。

【吉川】　　でも逆に、新しく来た方が入りにくいと思ったところ、入れてよかったというのは、それは逆の意味でもよかったかなと。その辺はいろいろ試行錯誤させていただきます。

【川崎委員】　　もう一ついいですか。その次の附属喫茶棟のカフェのメニューが、今回企画展の内容に合わせて特別メニューが出ているというので、私も4日の日にレセプションの後に券をもらったのでコーヒーを飲みに行ってみたんです。行って中に入ってメニューを見て初めてそのメニューがあるっていうのがわかったんですね。入口とかに告知があったんですか。

【吉川】　　アンケートを書いていたところに一応掲示してあるんですけども、入口が受付の窓口が狭いので、あそこに置いてしまうと受付のじゃまになってしまうので、写真をいただくなどして工夫したいと思っています。

【川崎委員】　　このパンフレットとかにはなかなか盛り込めない感じですか。

【吉川】　　まだその時点でメニューが決まっていなかったんです。

【川崎委員】　　ポストカードのプレゼントとか、広報の利用の促進ができたと思ったの。

【吉川】 一応、掲示はしてあるのですが、もう少しわかりやすい工夫をしたいと思います。

【鉄矢会長】 そのほかにございますか。

【鉄矢会長】 済みません。附属喫茶棟というのは今度は正式名称になったんですか。前は喫茶棟、喫茶棟と。この附属がついたので。

【吉川】 附属をつけて、美術館も喫茶棟も一体だよということをメインにしたいと思ひまして、一応、全部協定書とか、公の文書には附属をつけています。

【鉄矢会長】 わかりました。変わりましたよね。

【吉川】 そうですね。カフェと呼んだり、皆さんいろいろな呼び方をするんですけども、正式には附属喫茶棟で統一したいと思います。

【鉄矢会長】 正式は附属喫茶棟に。茶室のほうは附属茶室になる？

【吉川】 茶室はそのまま花侵庵です。

【鉄矢会長】 そのほかにございますか。

それでは次に次第の2の(2)の今後の開催予定の展覧会・ワークショップ等について、事務局から説明願ひます。

【鈴木学芸員】 済みません、先ほどすでに説明してしまいましたが、散歩のイベントですとか、鑑賞+創作プログラムが、これから開かれる展覧会の関連イベントとしてあります。また教育普及事業も先ほど申し上げてしまったのですが、第一小学校から第二小学校までお越しくださいます。

済みません、児島善三郎展で小冊子を作成しているのですが、作成が遅れておりまして、10日の金曜日に納品されますので、納品されたらお渡しする形になるかと思ひます。

それから、(3)のその他ですけれども、作品の貸出予定がござひます。福岡県立美術館、新居浜市美術館で「没後50年 中村研一展」が開催されます。福岡県立美術館は平成30年の2月3日から3月11日で、新居浜市美術館は平成30年の4月下旬から6月上旬にかけて行われます。当館からは多くの作品を貸し出す予定で、中村研一の「フランス婦人像」、「シンガポールへの道」など、当館が所蔵している代表的な作品、約27点をお貸しして、展覧会にご協力する形になります。当館では中村研一の記念美術館でもありますので、中村をメインにした所蔵作品展は例年開催しておりますし、企画展でも中村の作品を展示しているのですが、今回このような形で全国的に中村研一を回顧する展覧会が開かれるということですので、それは当館の規模ではなかなかできないことですので、大変貴

重なる機会だと思っています。

特に中村研一の研究が近年、精力的に一当館も含めですけれども一研究が行われておりますし、中村の再評価も実は美術史研究では行われているのですね。そのような背景で開催される展覧会に、全国に所蔵される中村研一の作品、フランスに留学していた時期の作品、戦前の作品、戦争画、戦後の作品も多数展示されるようで、非常に興味深いです。今後の展覧会のことなどについては以上になります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。何かご質問等ありましたらよろしくお願ひします。

【上原委員】 新居浜市の市立の美術館って、どこにあるんでしょうか。

【鈴木学芸員】 新居浜市に。

【上原委員】 それはわかるんだけど、何県というか。

【鈴木学芸員】 愛媛県です。

【上原委員】 ああ、愛媛ですか。

【薩摩学芸顧問】 割合、最近できた美術館ですよ。といってももう5年ぐらいたつのかな。

【鈴木学芸員】 そうですね、もともと新居浜市には郷土美術館が前身としてあったのですけれども…。実はおととしから去年にかけて、この新居浜市美術館に作品を数点お貸ししました。新居浜は、中村研一の父親が勤務した住友の会社などもありますので、中村研一に大変ゆかりのあるところなんですね。また、中村は福岡県の宗像出身ですので、今回このような展覧会が開催されるようです。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。質問ですけれども、美術館のこの展覧会中、ああ、小金井に行ってみようという感じがするような何かインフォメーションを出すんですか。「はけの森美術館」来て、ああ、「はけの森美術館」って、中村研一記念と書いてあるというぐらい、美術館の商業みたいなのを。

【鈴木学芸員】 そうですね、当館は新聞等の媒体で広告を出すこともありますし、何らかのかたちで記事にさせていただくこともありますので…

【鉄矢会長】 いや、そういう意味ではなくて、新居浜市美術館で没後50年の中村研一展をやっているときに、見に行った人が「ああ、小金井に行くと中村研一美術館があるのか」と思って、足を運びたくなるような仕組みを少しでも。

【鈴木学芸員】 そうですね、当館が協力させていただくことなどを何かしら先方でも

インフォメーションはして下さるといふふうに伺っているのですが。ただ、実際にどのようなことになるか…。

【鉄矢会長】　　じゃあ、してくれるということは、こちらから積極的にこれを置いてほしいとかいうのはしていない。

【鈴木学芸員】　　新居浜市美術館では、当館の概要を記したパネルなどを展示室もしくはロビーに置いてくださるようです。

【薩摩学芸顧問】　　鉄矢委員長が言っているのは、こちらから出ないのかという話で、やってくださるといふことではなくて、むしろ積極的に頼み込んだほうがよいと。それから2月3日から3月11日は福岡だから、それまでにできればよいと。大体3月下旬から5月の頭ぐらいまで中村研一の作品展をやるから、それまでにある程度決めて、日程も決めてできれば、少なくとも福岡の会期中にはポスターもつくって、2月3日からとは言わないけれども。

【鈴木学芸員】　　当館のチラシなどを置いたほうがよいと。

【薩摩学芸顧問】　　そうそう。この段階で。それで、その人たちが福岡だから来てくれるかどうかはわからないけれども、少なくともここにこういうのがあるという宣伝にはなると思う。

【鈴木学芸員】　　そうですね。福岡と新居浜の展覧会情報は次の所蔵作品展のチラシに掲載したいと思っています。

【薩摩学芸顧問】　　だから、少し所蔵展の企画を早くして、この福岡の会期に間に合うぐらいにポスターをつかって福岡に送る。そういうちょっと積極的なことを考えましょう。いい機会だから。

【鈴木学芸員】　　そうですね。そのように調整して広報物を早く作成したいと思います。

【鉄矢会長】　　そのほか、ございませんか。新居浜市と小金井市は何か連携を組んでいるとかないですか。

【鈴木委員（館長）】　　特にないですね。

【鉄矢会長】　　学校に行けない子がこっちに留学できるとか。何かいい意味で、こういうゆかりがあるところとつながれるのだと。

【鈴木委員（館長）】　　災害の協定だとか、あるいは桜のつながりだとか、そういうので自治体間の協定を結んでいるようなところがございますので、例えば新居浜さんと何かつながれる要素がないか、ちょっと調べてみたいなと思います。

【鉄矢会長】 鈴木館長にくっついて。

【鈴木委員（館長）】 ちょっと頑張って探してみます。

【鉄矢会長】 何か特があるわけじゃなくて、損もないので。ただ、やっぱり向こうの美術館でこういうことやるとか、向こうの人も小金井市と協定を持っているんだよというのが新聞に載るだけでも、何で？ というので中村研一というつながりなんだよというのができるんだったら、これはおもしろいなと思うので。

【鈴木委員（館長）】 ありがとうございます。ちょっと研究してみたいと思います。

【鉄矢会長】 そのほかございませんようでしたら、そのまま意見交換に入りたいと思います。委員の皆様から何かありましたらお話しいただけると。

先ほどお話がありましたように、カフェのほうが随分いろいろなことを仕掛けようとしているような感じが聞こえてくるのでよかったのかなと思っているんですけども、いっぱい入っているのかなという心配もありながら、お客さんはいっぱい入っているのかなという心配もあるんですけども。

【吉川】 そうですね。この前の8月の深水展のときは、たくさんお客さんが入ったことですが、美術館もそうなんですけれども、雨が降るとお客さんが来ないし、展覧会をやっていないときにも喫茶棟は営業しているので、苦戦しているようです。

【鉄矢会長】 そうですね。

【吉川】 それで、カフェ主催で学習会をやったり。たまたま美術館でワークショップをやっている時に、向こうでもワークショップみたいなことをやっていて、ちょっと動線で混乱したりもしたんですけども、それは逆に楽しい。この森と美術館と喫茶棟が一体となって、好きなほうに行ける形はおもしろいかなと思っているんですけども。ここも休館が多いので、それがここの運営の仕方としてしょうがないというところなんですけれども、苦戦はしているみたいですね。でも、すごく考えて食べ物を出してくださっているんで、じわじわとファンが増えている状況ではあります。

【鉄矢会長】 そのほか、ありますか。

【川崎委員】 雨の日のプレゼント企画というのは、もう終わって、今回はやっていないんですか。

【鈴木学芸員】 前回、試験的に行ったということもあって、今回は行わなかったんで、今後また計画しています。

【吉川】 夏がここは暑いのと、雨が降ると、皆さん来ないと。夏が案外、客足が伸びないので。秋はこの間11月4日に開いて、11月4日、5日とお客さんが入って、やっぱり秋になると、皆さん、涼しいし、歩いて美術館に行こうという気持ちになるのか、秋はすごくお客さんが入ります。夏休みだと入るかなと思うのですが、皆さんお出かけしてしまうし、都内の美術館も夏休み向けにいろいろなことをやっているの、どうしても地元美術館に足が向かないのかなというのがあります。雨の日のサービスは、夕立も多いですし、梅雨時でもあり、やっぱり夏のサービスかなという感じはしています。

【川崎委員】 特に来館されたお客様にプレゼントのことを知って来館されたかどうかとか、確認はしなかったのですか。

【吉川】 知って来館されて、「雨、降っていますよね。」とおっしゃる方もいらっしゃいます。「え、降ってるの？」と、思ったときがあったのですけれど、そういう方もいらっしゃいましたし、「雨だけど行ってみようと思って来たら、プレゼントをもらってうれしかった。」という方もいらっしゃいます。

【鉄矢会長】 最近、美術館に行くときインスタ映えするような外に流していいような、写真撮り場が随分つくられていますね。ここで写真を撮っていいですよって。そういうのがあってもいいかなって、前原小の子供は多分、ネットユーザーですごいだろうから。すぐには出さないけど、いろいろなちびっこ取材班が出てもいいだろうし、大学生もみんなすぐ撮る時代ですから、美術館もやっぱり早かったですね、大きい美術館。すぐにインスタ映えするように、でかーいので、ここは写真を撮っていいですよというのがすごくできているので。

【鈴木委員（館長）】 それは作品を撮っていいという？

【鉄矢会長】 作品であったり、大きなポスターの前に立てるという格好とか。

【吉川】 うちの表に出ているバナーの前ではよく撮っている。あと、階段で撮りたがります。階段は撮っていいですよって言うんですけど。

【鉄矢会長】 インスタ映えするところはどこかなって、検討しないと。

【鈴木学芸員】 そういったことも検討したいとは思いますが…なかなか。

【鉄矢会長】 あとはアリエッティの写真が撮れるのがそばにあるよというのが、そばに引っ張って来られるでしょうね。皆さん、いかがですか。ほかになければ。

【吉川】 1点だけ、よろしいですか。済みません、「ゆかりの武蔵野を散策しよう」というイベントを11月23日にやるんですけれども、この展覧会にあわせて、ちょっとま

だ申込みが少ないみたいですので、これから確定したコースをホームページやチラシとかに、簡易のチラシをつくって出そうと思っているんです。今、ざっとコースだけお話しさせていただきますと、国分寺駅に1時に集まりまして、そのままこの展覧会に作品を出していただいている児嶋画廊さんに行きます。児嶋画廊さんでもちょうど同じ、テーマは全然違う、児島善三郎さんの展覧会に似た展示をしていますので、そちらを見せていただいて、そのアトリエの周りを児嶋俊郎さんというご遺族の方にご説明していただいて、しばらくそこを見せていただいてから、武蔵国分寺公園の中を歩いて、真姿の池に来まして、そのままお鷹の道を通って、国分寺駅のほうに戻り、あとは今度、野川沿いに歩くんですね。次の橋がもみじ橋というんですけれども、そこに少しだけもみじの木があるので、11月23日だとちょっと紅葉していないかな、と期待をしているところですが、そこから今度は国分寺市側の野川がちょっと護岸がコンクリで固まっていてあまりおもしろくない川なんですけれども、そのまま野川に沿って平安橋というところまで歩いて、そこから東京経済大学の下まで行きます。そこから貫井神社のほうに行って、貫井神社を通り、そこから今度は小金井市の野川を歩いて、両側がすぐ見えるような川沿いを歩けますので、そのままどんどん野川を歩きまして、新小金井街道、小金井街道をくぐって、中前橋から上がってはけの小道を通ってここの美術館に帰ってきて、喫茶棟でお茶を飲んで、余力があれば展覧会も見てくださいという、そういうコースになります。

歩くだけでも2時間ぐらいかかってしまうので、歩く体力があって大丈夫よという方はぜひご参加いただけると、天気がよければとても気持ちがいいですし、ご参加いただけるといいなと思います。

地域雑誌「きまま」の編集をしている方に小金井部分を解説していただくことになっていますので、野川の成り立ちとか、はけのことですとか、貫井神社とか、その辺をガイドしてもらいながら、はけの森美術館に向かいますので、国分寺部分は児嶋画廊の児嶋俊郎さんに解説してもらって、ちょっとおもしろいツアーになりますので、お天気さえよければという感じですが。

【鉄矢会長】 これはお休みの日なんですね。

【吉川】 そうです。祝日なので。

【鉄矢会長】 大学は祝日、授業することになってしまって、悲しいことに。

【吉川】 残念です。祝日は児嶋画廊さんはお休みなんですけど、無理やり開けてもらうと。

【鉄矢会長】 授業が入ってしまって。

【上原委員】 済みません、これ、市報に載っていましたでしょうか。

【吉川】 市報に載っています。

【上原委員】 ああ、そうでしたか。気がつかなかった。

【吉川】 ただ、字数の制限があつて今話したコースは載っていないので、これからコースを全部紹介したものを出しますので、ぜひ。

【上原委員】 それと、これは何名募集とか、そういうのは。

【吉川】 20名募集で出しています。みんなで団体で歩くと、時間通りにはもしかしたら行かないかもしれないですので、結構夕方になっちゃうかもしれないですが。

【鉄矢会長】 では、よろしければ次回の日程調整に入りたいと思うんですけども。その前に、会議録の校正について事務局から、スケジュールも。

【事務局】 毎回お願いしているところですが、前回、第2回の会議録について、内容をご確認いただき、修正などがある場合は11月28日火曜日までにコミュニティ文化課へご連絡ください。よろしくお願いします。

【鉄矢会長】 11月28日ですね。では、続いて次回の運営協議会の日程について、どなたかご意見はありますか。

【鈴木委員（館長）】 例年ですと2月の上旬、中旬ぐらいに開催しております。2月の13日あたりは皆様いかがでしょうか。

～日程調整～

【鉄矢会長】 では次回は2018年2月13日火曜日、18時半からということで、よろしくお願いします。ほかに何かございますでしょうか。

では、第3回小金井市はけの森美術館運営協議会のほうをこれにて閉めさせていただきます。今日はありがとうございました。進行へのご協力ありがとうございました。

— 了 —